令和6年度愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会開催要領

1 趣 旨

愛媛大学大学院農学研究科では、地域と世界の益々の発展のために「自然と共生する持続可能な社会を構築する」ことを大きな目標に、教育研究・社会貢献活動を進めている。一方、愛媛県農林水産研究所では、地域の技術的課題に速やかに対応し、本県の農林水産業の活性化を図ることを目指している。

これらの研究力を支えるため、また、将来に向けて挑戦的な研究に取り組んでいくために研究者の連携した活動に期待されている。

そこで、本年度は農学研究科研究グループ制度（ARG）により活動を行っている取り組みを中心とした議論、及びこれまでの幅広い農学研究科・研究所の研究成果を通じた意見交換により、今後の研究の展開を図る。

2 主 催 愛媛大学大学院農学研究科、愛媛県農林水産研究所

3 日 時 令和6年9月6日（金） 13：30～16：45

4 場 所 愛媛大学農学部 大講義室他（松山市樽味3-5-7）

5 内 容

(1) 主催者挨拶（13:30～13:45）（大講義室）

(2) 話題提供（13:45～14:15）（大講義室）

「農学研究科研究グループ制度（ARG）の展開と発展性」

（講師）愛媛大学大学院農学研究科 治多 伸介 研究科長

(3) 分科会（14:25～15:35）（大講義室、大会議室）

ア 第一分科会 『愛媛の作物が抱える課題をスピード育種で解決』

○座長：八丈野 孝 教授（岡本 充智 主任研究員）

愛媛県で栽培する作物には、「もう少しこうなって欲しい」、「こういう特長がある品種が欲しい」、「XXXで困っている」といった現場の声が数多くあるのではないのでしょうか。スピード育種技術を活用して新品種の開発につなげられないかを議論しましょう。

イ 第二分科会 『愛媛に必要なスマート農林水産業は』

○座長：上加 裕子 准教授（間 健二 室長）

農林水産業の生産現場を支える技術の一つとしてスマート化が注目されています。さまざまな技術が導入されようとしています。魅力ある産業として次世代に繋げるため、愛媛の農林水産業に必要なスマート技術について考えましょう。

(4) パネルでの研究成果等の紹介・展示（15：45～16：45）（21～23 番講義室等）

(5) 情報交換会（17：30～19：00）

6 参集範囲

愛媛大学大学院農学研究科、県農林水産研究所、国、市町、県関係機関 等

令和6年度愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会
パネルでの研究成果等の紹介・展示一覧

出展者	課題名
愛媛大学大学院農学研究科 (14)	
生命機能科学応用開発グループ・応用生命化学コース	微生物を使ってできること
農環境・生態系の保全と食の安全に係る包括的有害物質監視・リスク評価研究グループ・環境保全学コース	農環境・生態系の保全と食の安全に係る包括的有害物質監視・リスク評価研究グループの研究紹介
スピード育種システム研究グループ	スピード育種システム研究グループの研究紹介
グリーンテクノロジー研究グループ・応用生命化学コース	グリーンケミストリー研究グループの取り組み
環境先端技術センター・環境保全学コース	土壌団粒中のN ₂ O除去菌を制御する要因解明
柑橘産業イノベーションセンター	柑橘におけるゲノム編集に向けた基盤技術研究
附属ハダカムギ開発研究センター	ハダカムギの噴霧処理による低硝子率栽培技術の検討
農業生産学	ニワトリにおけるアミノ酸の機能解明と新規飼料開発への応用
植物工場システム学	ポンプアッププレッシャーチャンバーを用いた温州ミカン及び中晩柑の樹体水分状態計測
	みかんのリアルタイム病気診断システム
	クロロフィル蛍光によるメロン病害予測の農業者との実践
食料生産経営学	首都圏の消費者の温州みかんの産地間評価と品種の認知度
森林資源学	変わりゆく山間ー中山間地域の土砂災害危険性を可視化する
地域環境工学	(仮) 樹園地における斜面崩壊の防災・減災に関する研究
愛媛県農林水産研究所 (14)	
企画戦略部 農業研究部	ハダカムギの硝子率における実態調査と変動要因
	トマトキバガの発生と防除について
	水稻緩効性肥料のプラスチック被膜殻の流出削減に向けた取り組み
果樹研究センター みかん研究所	キウイフルーツの雌雄判別による育種の効率化
	かんきつ黒点病に対するドローン防除技術
	DNA検査法を用いたカンキツの品種識別
畜産研究センター 養鶏研究所	(仮) ICT機器（ファームノート）を活用した乳牛生体情報利用技術
	(仮) 牛受精卵効率の生産技術
	(仮) 抗酸化資材添加による鶏卵鮮度保持対策
林業研究センター	スギ雄性不稔個体作出を目的としたガラス温室内での交配時の外来花粉の排除
	スギ人工林低密度植栽試験地における成長量と11年次の応力波伝播速度
	9年生スギエリートツリーと従来種苗と応力波伝播速度の比較
水産研究センター 栽培資源研究所	ブリ人工種苗の普及に向けて
	アサリ資源回復技術の研究

※課題名等は、変更となる可能性があります。